

[前画面へ戻る](#)

科目名 人事労務論 I
配当年次 1 年次
開講期間 春学期
単位数 2
担当教員 塚本 成美(ツカモト ナルミ)
期間・曜日・時限・教室 春学期 火曜日 4 時限 1 7 - 3 0 6

※

①授業の概要：働く人間の管理は、どのような考え方で行われるのだろうか。現代社会に生きる人間は、生活するために「職業労働」に従事している。職業労働に従事するということは、企業経営に雇用されて具体的な職場に配置され、具体的な労働をするということである。この場合、「雇用労働」がどのような人事労務管理の思考と方法でおこなわれるかは、勤労者の生活の質にとって決定的に重要である。本講義では、雇用労働の基盤となる人事労務管理の考え方と歴史および基礎理論を紹介し、雇用労働の人間的・社会的意味を追究したい。

授業の目的・目標

②授業の目的：人事労務管理の考え方と歴史および基礎理論を知ることで、労働管理の発想がどのようなものであるかを根本的に理解する力をつけることをめざす。

③習得できる力：経営学部ディプロマポリシーあるいは全学部ディプロマポリシーとの関連については、別紙に示します。

④授業の到達目標：労働者はどのような発想を持つ管理活動の中で働くのか、また管理者はどのような発想で労働を管理するのかを理解できるようになる。

⑤実務経験と授業内容との関連： なし

1回の授業について

準備学習等の指示

・予習（1時間45分）：授業資料となるPDFを一週間前にWebclassにアップするのでよく読んでおくこと。

・授業で取り上げるPDFと参考書などにより、授業の大まかな流れをつかんでおくこと。次回対象となる項目については各授業の終了時に説明する。

・復習（1時間45分）：授業で取り上げた重要なポイントを中心に、ノートを見直し論点を整理して、確認テストを作成・提出すること。次回授業時に適宜内容を確認し、フィードバックを行う。

課題の配布や提出を行うため、WebClass等のLMSを用いる。

講義スケジュール ■ 1回目

【テーマ】 人事労務論の対象と労働(シラバスの説明)

【到達目標】 現代の働き方を被雇用労働とは何か、雇われて働くということとはどのようなことなのかという視点から学ぶことで、現代人事労務の中心問題を理解できるようになる。

【準備学習】 シラバスをもちいて本講義の問題設定と構成を説明しますので、シラバスを読んできてください。

■ 2回目

【テーマ】 労働の公的概念

【到達目標】 職業分類や労働者の種類など、官庁や法律で使用されている労働の公的概念を学ぶことで、現代における労働の枠組みを理解することができるようになる。

【準備学習】 Webclassにアップしてある講義資料のパワーポイント(PDF)を見ておくとう理解が深まります。また、パワーポイントを印刷して講義に持参し、メモをとりながら聴くと復習するときに便利です。

■ 3回目

【テーマ】 労働者の従属性

【到達目標】 正規・非正規の雇用労働の性格を個別的かつ詳細に学ぶことで、近代労働の従属性を理解できるようになる。

【準備学習】 Webclassにアップしてある講義資料のパワーポイント(PDF)を見ておくとう理解が深まります。また、パワーポイントを印刷して講義に持参し、メモをとりながら聴くと復習するときに便利です。

■ 4回目

【テーマ】 近代的雇用労働の生成

【到達目標】 近代において被雇用労働者が生まれてきた経緯とその特質をすることで、労働、とくに企業における労働とは何かを理解できるようになる。また、労働者を保護する法律ができたために管理された労働が必要となったことを知ること、保護と管理は同じ根をもつ企業の事情に由来するものであることを理解できるようになる。

【準備学習】 Webclassにアップしてある講義資料のパワーポイント(PDF)を見ておくとう理解が深まります。また、パワーポイントを印刷して講義に持参し、メモをとりながら聴くと復習するときに便利です。

■ 5回目

【テーマ】 経営合理化と非人間化

【到達目標】 管理された労働の効率追求が作業組織の発展を促進したことを知り、経営の技術的合理化がいかに人間的・社会的諸問題をうみだしてきたかを理解できるようになる。

【準備学習】 Webclassにアップしてある講義資料のパワーポイント(PDF)を見ておくとう理解が深まります。また、パワーポイントを印刷して講義に持参し、メモをとりながら聴くと復習するときに便利です。

■ 6回目

【テーマ】 科学的管理法

【到達目標】 テイラーの標準作業方式と職能的組織の本質を知ること、科学的管

理がいかに現代の社会と経営の基盤となっているかを理解できるようになる。

【準備学習】Webclassにアップしてある講義資料のパワーポイント(PDF)を見ておく
と理解が深まります。また、パワーポイントを印刷して講義に持参し、メモをとり
ながら聴くと復習するときに便利です。

■ 7回目

【テーマ】 労働とは何か。(課題レポート及びフィードバック)

【到達目標】講義の内容に沿って近代における労働とは何かについて論述すること
で、文章力が付くだけではなく、考えをまとめ自分の言葉で表現できるようにな
る。

【準備学習】Webclassにアップしてある講義資料のパワーポイント(PDF)や講義時
のノートなどを見直し、労働とはどのようなものかについて自分なりの論理構成を
たてておく、レポートを書くのに便利です。

■ 8回目

【テーマ】 科学的管理から人間関係論へ

【到達目標】テイラーの提案した賃金制度を検証することで、賃金制度がいかに労
働の心理的刺激として作用したか、あるいはしなかったかを考え、現場における人
間労働がいかに他律化し非精神化したかを理解することができるようになること
に、なぜ人間関係論が生まれたかを理解できるようになる。

【準備学習】Webclassにアップしてある講義資料のパワーポイント(PDF)を見てお
くと理解が深まります。また、パワーポイントを印刷して講義に持参し、メモをとり
ながら聴くと復習するときに便利です。

■ 9回目

【テーマ】 ホーソン実験と人間関係論—労働管理のアメリカ的発想

【到達目標】人間関係論が科学的管理の反動で出てきたことを知ることによって、
人間関係論の問題意識が生産性向上にあったことを理解するとともに、管理の中に
作業だけではなく人間関係が含まれるようになってきた経緯を理解できるようにな
る。

【準備学習】Webclassにアップしてある講義資料のパワーポイント(PDF)を見てお
くと理解が深まります。また、パワーポイントを印刷して講義に持参し、メモをとり
ながら聴くと復習するときに便利です。

■ 10回目

【テーマ】 経営社会政策—労働管理のドイツ的発想

【到達目標】アメリカの人間関係論とは異なるドイツの労働管理のアプローチを知
ることで、人事労務管理は文化的・社会的条件と密接に関係していることを理解で
きるようになる。

【準備学習】Webclassにアップしてある講義資料のパワーポイントを見ておく
と理解が深まります。また、パワーポイントを印刷して講義に持参し、メモをとりな
がら聴くと復習するときに便利です。

■ 11回目

【テーマ】 社会的経営政策と労使関係

【到達目標】労働者の経営への貴族関係が日本と近いドイツにおける人事労務の考
え方を学ぶことで、日本における新しい時代の新しい人事労務管理を考える基礎が
できる。

【準備学習】Webclassにアップしてある講義資料のパワーポイント(PDF)を見ておく
と理解が深まります。また、パワーポイントを印刷して講義に持参し、メモをとり
ながら聴くと復習するときに便利です。

■12回目

【テーマ】 社会的経営政策の諸問題

【到達目標】1930年にベルリン工科大学経営社会学研究所で行われた連続公演「社
会的経営政策の諸問題」をもとに、ドイツにおける人間的労務管理の考え方を様々
な立場から概観することで、人事労務管理の抱える矛盾と課題、あるいは理想的な
在り方を理解できるようになる。

【準備学習】Webclassにアップしてある講義資料のパワーポイント(PDF)を見てお
くと理解が深まります。また、パワーポイントを印刷して講義に持参し、メモをとり
ながら聴くと復習するときに便利です。

■13回目

【テーマ】 日本型人事労務の展開と特質

【到達目標】明治・大正期から形成されてきた日本的雇用慣行と、戦後の資本主
義の成熟期と東西冷戦構造化で形成された人事労務管理と日本的経営の特質を知る
ことで、現在の人事労務管理の基盤となる制度がどのように考えられてきたかを理
解できるようになる。

【準備学習】Webclassにアップしてある講義資料のパワーポイント(PDF)や講義時
のノートなどを見直し、ドイツ的人事労務と日本型人事労務の特質とはどのような
ものかについて自分なりの論理構成をたてておくと、レポートを書くのに便利で
す。

教科書 なし。ただし、講義資料のパワーポイント(PDF)は、テキストの代わりになるよう
にかなりの内容を書き込みます。

参考文献 アレント H.(1994)『人間の条件』(志水速雄訳) ちくま学芸文庫
矢野久美子(2014)『ハンナ・アレント―「戦争の世紀」を生きた政治哲学者』 中
公新書
マルクス K.(1981)『賃労働と資本』(長谷部文雄訳) 岩波文庫

授業の方法 1.講義方式でおこないます。
①原則として対面でおこないますが、Zoomによるオンラインのリアル配信もおこ
ないます。
②講義は録画してWebclassにアップし、オンデマンドでの視聴もできるようにしま
す。
③講義の内容は、事前にWebclassにアップロードしておきます。
2.セメスター期間中に1-2回講義内容についての課題レポートを書いてもらいます
(授業スケジュール参照)。課題レポートについては、次の講義時にフィードバック
をおこないます。
3.双方向性を確保するために、講義後に確認テスト(リアクションペーパー)を提出
してもらいます。確認テストでは、その日の講義内容および質問やわかったこと、
感想などについて書いてもらいます。
①次回講義の最初に前回講義の復習をかねて、確認テストの答えと質問等のフィー
ドバックをおこないます。

②履修者のコメントや感想は、匿名でWebclassにアップし共有します。いろいろな意見を参考にしながら講義内容の理解を深めていきます(問答法)。

4.課題レポートと確認テストの提出はすべて、Webclassでおこないます。

【評価方法・割合】確認テスト(50%)、中間課題レポート(25%)、期末テスト(25%)で評価します。

成績評価方法 【基準】(1)講義の理解度を、レポートの場合は、①論点が網羅されているか、②論点に関して十分な説明や論述が行われているか、③問題を正しく理解し、自分の言葉で理解して表現しているか、④論理的に構成されているか、⑤全体の分量などで評価します。

(2)確認テストの場合は、①正解がわかっているか、②質問は適切か、③講義内容を言語化できているかなど、で評価します。

【フィードバック方法】なお、課題等については、「授業の方法」でも書いたように、次回講義時に全体に向けてコメントします。

オフィスア
ワー

居室 17-412

ホームペー
ジ

その他特記
事項

添付ファイ
ル

[前画面へ戻る](#)